

2013

Number

084

TAMA UNIVERSITY

# Rapport

## Contents

経営情報学部 ゼミ紹介 P.02

ゼミ活動報告 P.03

多摩大学 学園祭  
雲雀祭・SGS Festa P.04

経営情報学部 キャリアサポート  
インターンシップ発表会・出陣式 P.06

News  
就職サポートセミナー 報告 P.07

国際交流報告

写真で見る 多摩大学の歴史⑦ P.08

多摩大学一体となって  
就活戦線に送り出す

## 出陣式

2013年12月11日



樋口 裕一 ホームゼミ

## 多摩地区にクラシック音楽を！

樋口ゼミは、クラシック音楽のコンサートを企画立案し、それを実現して、日本に、とりわけ多摩地区にクラシック音楽を広める活動をしています。クラシック音楽を通して文化活動を盛んにし、地域を活気づけ、子ども、若者、大人、お年寄りを結び付け、音楽をとともに楽しむ社会を築きます。

2009年4月に発足以来、日本を代表する作曲家・三枝成彰、日本を代表するチェリスト・山本裕康をはじめとする有名人のほか、これからクラシック音楽界の大スターになる若手演奏家を招いて、多摩大学構内やパルテノン多摩、九段のみねるばの森、渋谷区のHAKUJU HALL、唐木田の菖蒲館などで多くのコンサートを開いてきました。ほとんど毎回、多くのお客様に「感動した」という感想をもらっています。

学生が中心になってコンサートを企画し、チラシを作ったり、曲目紹介を書いたり、チケットを販売したり、コンサート当日、運営をするなどの活動を行います。演奏者やホールとの交渉なども仕事です。こうすることで、企画力、文章力、交渉力などを養い、社会に出て通用する力をつけます。地域の人に喜んでもらえる企画を作りながら、自分たちも成長するゼミです。



**プロフィール**  
樋口 裕一 (ヒグチ ユウイチ)  
経営情報学部 教授

1951年大分県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業、立教大学大学院博士課程満期退学。250万部のベストセラーになった「頭がいい人、悪い人の話し方」のほか「読むだけ小論文」「小論文これだけ」「ホンモノの文章力」などの著書がある。「音楽で人は輝く」などのクラシック音楽関係の著書も多い。

中村 その子 ホームゼミ

## 世の中 PR できないものはない！

中村その子ゼミは「世の中 PR できないものはない！」を合言葉に映像・ラジオ CM、ポスター、ロゴ制作、キャラクターデザイン、地元企業のキャンペーン提案、ラジオ番組のプロデュース、イベント・展示会企画・参加、キャッチコピー研究など、社会で自分の製品やサービス、アイデアを効果的に PR する方法、社会に感動を与える広告・宣伝を学ぶゼミです。ゼミ活動での成果は、決して教室の中だけでは終わらせず、地元企業や自治体とコラボして実際に社会へ発信していきますので、自分の業績が「本物」として目に見える形で残っていくのが大きな特徴です。ゼミ生制作の実在企業のラジオ CM がオンエアされ、自分がデザインしたポスターやタペストリーが店頭を飾り、ゼミの時間に悩みに悩んでひねり出したキャッチコピーが展示会でお客様を迎えます。そのような活動の中で相手にするのは現役のビジネスパーソン、自ずと仕事をするのに必要なコミュニケーション力、ひいては人間力が養われていきます。そうです！そのこゼミ生は大学生だけれどもすでに社会人＝シャカ大生なのです！（ゼミ生が実際に作ったラジオ CM コピーです。）



**プロフィール**  
中村 その子 (ナカムラ ソノコ)  
経営情報学部 教授

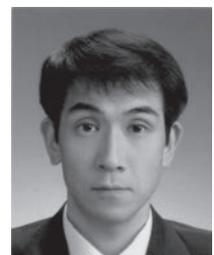
青山学院大学文学部卒。青山学院大学大学院修士課程修了。関東学院大学文学部非常勤講師を経て現職。専攻は言語。お酒とコーヒーが苦手、紅茶と車の運転が好き。所属学会：日本語教育学会

プレホームゼミ

## プレホームゼミナールの内容と目的について

プレホームゼミナールは、1年生全員を対象とした秋学期開講の必修科目です。1年生の春学期では、友達作りや物事の考え方について学ぶプレゼミナールという科目があり、また2年生の春学期からは、各教員によるホームゼミナールが展開されます。プレホームゼミナールは、これらの橋渡しをするものと位置付けられています。具体的には、毎回、数名の教員が、自身の専門分野やホームゼミナールの内容について話します。

この科目によって、学生は事前に全教員のホームゼミナールを知ることができ、選択することができます。多摩大学は「ゼミ中心大学」であることを標榜しており、その中でもホームゼミナールはとても重要です。学生自身の興味と合致しない、あるいはこんなはずではなかったという認識の違いがあると、その継続は難しいものとなってしまいます。このプレホームゼミナールでは、ホームゼミナールの内容をよく理解し、そうした問題を事前に回避するとともに、ホームゼミナールに対してより深く興味を持ってもらうことをねらいとしています。この科目の存在が、ホームゼミナールの選択に対して有効に働き、ゼミナール中心となる今後の大学生活が実り多いものになることを期待しています。



**プロフィール**  
下井 直毅 (シモイ ナオキ)  
経営情報学部 教授

東京大学経済学部卒。東京大学大学院経済学研究科博士課程へ進学。その後、日本経済国際共同研究センター研究機関研究員、日本学術振興会特別研究員を経て、現在に至る。総合研究開発機構客員研究員。

江頭  
ゼミ横浜FCプロジェクトゼミ  
横浜FC×多摩大学 EVENT DAY「特別な一日」

## ■ イベント開催概要と目的 〈3年 岡本 菜摘〉

2008年から多摩大学と横浜FCは提携し「サッカービジネスプロジェクト」を実施している。その一環として2013年11月3日に開催された横浜FCのホームゲーム（ニッパツ三ツ沢球技場）対松本山雅FC戦にて横浜FCゼミの学生主催のイベントを開催した。この日、キングカズこと三浦知良が最年長ゴール記録を更新したことで大きくメディアに取り上げられた試合でもあった。

私たちは、横浜FCをはじめとするJリーグの抱える問題をいかに解決していくか、現地調査を行いつつ、考察、立案、実行していくことを考えている。キックオフまでの空白の時間を楽しんでいただくこと。スタジアムに来場した事実を試合結果のみではなく、記憶に残るイベントを開催し、来場してから試合終了までの全ての時間を「来てよかった」と思っていただき、ネットを通し共有していただく。そして、「非日常」を体感してもらう場を私たちが提供し、「特別な一日」にしてもらうことが、今回のイベントの開催目的である。

私たちが主催したイベントは、大きく体験・応援・グッズに分けることができる。唯一の体験イベントである「サッカー射的」は小さな子供に大変人気であった。お祭りでは定番の射的の要領で行うシンプルな体験型イベントであった。応援型のイベントは「応援Tシャツ」と「モザイクアート」を行い、サポーターの方々に好評で、多くの方がこの作品の前で記念撮影を行った。グッズ型のイベントは昔懐かしい「プラバン」「ビーズアクセ」も人気で、親子で楽しんでいる姿を多く見ることができた。毎年定番の横浜FCのロゴとマ



ピッチでの集合写真

スコットをあしらった、フェイスシールは学生とサポーターの方々が触れ合いつつ、スタジアムで「一体感」を作り出すことができた。

今回一番の人気だったイベントは横浜FCカラーのゴムを三つ編みにして作る「ヘアバンド」であった。手軽にできるうえにオシャレで子供だけではなく、母親方にも人気であった。

## ■ プロジェクトリーダーから 〈3年 生井澤 知弥〉

私は今年のイベントは二年目で、数少ない経験者としてイベントに携わってきた。さらに今年はイベントプロデューサーとして、ゼミ生を引っ張っていくのはもちろん、横浜FCさんの運営担当の方とも何度も打ち合わせや連絡を取り合って、どのようにすればイベントを成功できるのか考えてきた。江頭先生には何度も怒られ、運営担当の方に何回謝ったのかも覚えていないほどです。しかし、学生のうちにこのような経験しておきなさい。と先生や運営担当の方に言われ、励まされました。イベントは最終的にクレームも無く、大成功で終わることができましたが、改善点は多く残りました。この改善点を来年に引き継いで良くしてもらおうか、良いところをどのように伝えていくか。まだまだプロデューサーの仕事はたくさん残ってるので、しっかりと最後まで仕事をしていきたいと思えます。

浜田  
ゼミ

## 浜田ゼミ夏合宿で得たこと

9月7日（土）～11日（水）まで、静岡県熱海で4泊5日の夏合宿を行いました。2年生はKJ法、3年生はビジネスプランニング、就職活動支援講座を行いました。普段とは違う環境で勉強することにより、より一層勉強に集中することができました。参加した学生全員が真剣に取り組み、とても有意義なものになりました。

4泊5日という短い期間でしたが、寝食を共にすることによりゼミ生の絆もより一層深まったと思います。今後のゼミ活動にも今回の合宿で培った経験が良い影響を与えることと思います。

〈広報部 3年 目黒 健悟〉

## ■ ゼミ代表から浜田ゼミ合宿の言葉 〈3年 三浦 晃太〉

浜田ゼミの夏合宿では、社会人としての体験を4泊5日通して合宿を行う仕組みとなっております。2年生は、机の上だけの学びから離れて、実際に自分達が見て感じたものをKJ法という手法を用いて調査する事でフィールドワークを学びました。3年生はビジネスを作り出す事として、架空のビジネスを企画し、事業計画書の書き方や、それらのプレゼンテーションを行い、ビジネスプランニングを学びました。さらに、実際に就職活動を行い、内定を頂いた4年生の方々から就職活動に対する講義や模擬試験を1日通して行っていただきました。全体では、実際に社会で働いているOB、OGの方に社会人の目線での貴重なお話をしていただきました。他にも、旅行会社とのやり取りにより宿を決めたりと、当日だけではなく、合宿を行うまでの細かいスケジュール等も、リーダーや副リーダーを中心に、全学年、全体で協力をしながら合宿を作り上げていくことも大きな学びとなる合宿でした。

## ■ 合宿リーダーを終えての感想 〈3年 萬谷 夏実〉

今回、夏合宿リーダーを務めさせていただいて、リーダーというものがいかに大変かということを知ることのできる機会となりました。そして、周りのゼミ生の協力のお陰で無事に合宿を終えることができ、ゼミ生がさらに大好きになりました。また、合宿ではそれぞれ学年に分かれ



4泊5日の合宿を終えての集合写真

て2年生がKJ法、3年生が就職活動支援講座を行いました。普段の授業では時間が少なくできないことを合宿という長期間だからこそできるものを学ぶことができました。この合宿を通して、合宿を行う前よりも少し成長できたのではと思っています。

## ■ 副リーダーを終えての感想 〈3年 柴崎 圭亮〉

今回、夏合宿の副リーダーを務めさせていただいて、上の立場に立ってゼミ生をまとめることの難しさ、責任を背負うことの重大さを学ぶことができました。また、4泊5日という限られた時間を有効活用し、いかに効率的にスケジュールを進めるかということを考えてことによって、時間管理の重要性を再確認する機会にもなりました。私はこの合宿を通して、社会で必要となる力を身につけることが出来たと感じています。

## ■ 春学期2年生の代表を終えて 〈2年 山本 亮太〉

2年生の代表として初めて臨んだ合宿でした。2年生はKJ法という調査方法を学びました。このKJ法というものを理解するのに非常に時間がかかり、4日間を要しましたが、2年生全員で力を合わせて、習得することができました。皆で1つのことをやり遂げることににより、結束力がより強まった合宿となりました。

浜田ゼミではこのような合宿を春と夏に行っています。合宿を行うことで普段学ぶことの出来ないことも学ぶことができ、仲間の大切さをより感じる事ができました。浜田ゼミでは充実した合宿を毎年行っています。

〈広報部 3年 新津 理香〉

# 第25回 雲雀祭

**温故知新** ～大学という名のコミュニケーションツール～

10/19(土)～20(日)開催。今年の雲雀祭のテーマは「温故知新」。大学として常に新たなことを開拓しながらも、伝統などの古き良きことを残していこうという想いが込められています。地域に密着した学園祭としても周知されてきて、今年も子どもからお年寄りまで幅広い年齢の方々にご来場いただきました。



ダンスサークル TDC の模擬店ではポップコーンを販売

**梅澤ゼミ「多摩大学 25 周年マスコットキャラクター製作プロジェクト」**

多摩大学の顔となるマスコットキャラクターデザイン募集には8名14作品の応募。選考を重ねて今年度中に作品を選定予定。グッズや着ぐるみなどをつくり大学を盛り上げたい。



**プロジェクトゼミ「サンリオピューロランドの課題解決イベントの企画・運営」**

学園祭では「サンリオカフェ」を出店。12/8(日)19時から閉館後のサンリオピューロランドを使って、大学生、短大生、留学生などを対象としたイベントを開催。イベントのコンセプトは「メルヘンの世界でいつもと違う自分になれる」。来場者にはグッドメモリーを写真や動画などの形にして送る予定。



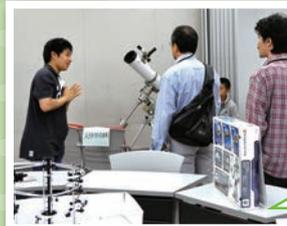
かつて多摩大に在籍した和泉侃 (Kan Izumi) さんの LIVE 19歳よりシンガーとして活動開始。



福島支援～道の駅ひらた～もちつきと東北物産展

**村山ゼミ**

**「日本大好きプロジェクト」茶道部**  
日本の様々な分野の伝統文化を多くの人に伝承することを目的に活動。幼稚園・保育園・児童館など各所で数多くの訪問型イベントを実施。当日は茶道担当のゼミ生13名がお茶席でおもてなし。



**サークル 科学技術部**

ものづくりの好きな仲間が集。ペーパークラフトの制作、ペットボトルロケットの打ち上げ、3000枚の写真を組み合わせたモザイクアートなど活動は様々。天体観測など学内イベントも実施。

# SGS Festa 2013

## 7th Annual

Take Action! ～元気・地域・心絆～

11/2(土)～3(日)開催。今年で7回目を迎える「SGS Festa」のテーマは「Take Action!」。地域に根づいた大学をつくるという多摩大学のコンセプトに基づき、「SGS Festa」を通して地域との輪を広げたいと思いました。さらにイベントや模擬店などで、グローバルスタディーズ学部ならではの国際カラーを発信しました。



1年生のAEP (Academic English Program) クラスの屋台。A2クラスはホットドッグを販売



アメリカンスクール・イン・ジャパンによる吹奏楽コンサート

ベトナム雑貨を販売する学生。高橋隼人さん(3年)は半年間、田中園子さん(2年)は2週間、シンガポールの学校へ留学し、ホスピタリティを学んだ。



茶道部は男女13名のサークル

**東北ボランティアサークル Make It!**  
東日本大震災をきっかけに2011年4月設立、2012年から活動開始。気仙沼、女川、石巻など被災地の保育園を訪問。英語教室を開き、子どもたちにゲームやパズルなどを通して英語を楽しんでもらった。心から笑っていない子どもの顔を見て、震災による傷跡の深さを実感した。



**ボランティアサークル Zion's club**

Zion先生が設立、メンバー数18名。家を建てることでコミュニティを築く自立支援型NGO「ハビタット・フォー・ヒューマニティ」に所属。「学生でも女性でも家を建てられる」ことがモットー。モンゴル、バングラデッシュ、スリランカなど、現地でその土地にあった家を建てたり、トイレや壁を作ったり要望に合わせて作業した。他大学との合宿や意見交換、情報共有など交流も盛ん。東北の被災地では瓦礫撤去や小屋作りのボランティア。来年3月にはインドネシアで活動予定。



Study Abroad Café 留学カフェで世界を旅しよう！  
留学先の写真、手作りのお菓子、コーヒー、紅茶で会話

## インターンシップ発表会

## 企業での実習体験を総括し、発表。学びを自分自身の糧に。

9月28日(土)13時～15時、多摩キャンパス201教室にて、「インターンシップ発表会」が開催されました。対象となったのは、2013年度のインターンシップに参加した2・3年生(秋学期履修登録者は全員対象)。始めに浜田正幸教授は、「体験から何を学んだかをことばにして、自分の学びに変える必要がある」と発表の意義を話し、会の概要を説明しました。学生たちは10名程度の小グループに分かれ、1人2分程度で発表し、代表者を選出。発表の内容は、インターン先の会社名・部署、仕事内容、学んだこと、気づいたことなど。代表者は1人5分の持ち時間で、パワーポイント、口頭などで発表しました。

○仕事の大変さ、社会の厳しさ、接客の楽しさを体験。責任感、就職に対する危機感を感じた(一般社団法人・2年女子)。○好きだけではやっていけない。車以外の知識も必要。時間の大切

さを実感した(自動車販売会社・3年男子)。○サッカーチームという組織は選手だけでなく、様々な人が関わって成り立っている。地域密着が大切だと思った。もっとサッカーが好きになった(横浜FC関連会社・3年男子)。○時間の大切さがわかった。3S(サービス・スピーディ・セーフティ)を学んだ。貴重な体験だった(CM素材運搬会社・3年男女)。○ミスは絶対に許されない。チームワークがいかに重要なかを学んだ。家族のありがたさを感じた(香川県の自然食品会社・3年男子)。○営業の基本を実地で体験しながら学んだ(印刷会社・3年男子)。

浜田教授は、「いろんな会社を直接見て、そこで働いている人に会ってほしい。インターンシップで学んだことをベースに自分はどうすればいいのか、これをきっかけに考えてほしい」と講評しました。



発表を前に浜田教授からの説明



グループごとにディスカッション



壇上で体験や感想を発表する学生

## キャリア支援講座：出陣式

## 戦いに向けて決起する『出陣式』

就職委員長 経営情報学部 教授 杉田 文章

多摩大学には、「入学式」「卒業式」に加えて、もう一つ大切な儀式があります。それは3年生が就職活動戦線に飛び出していく意思を今一度確かめ、高める儀式である「出陣式」です。

多摩大学は「現代の志塾」。講義も、ゼミも、その他のプログラムも、すべては、学生が将来社会人として活躍するためのもの。そんな学生生活を過ごしてきた3年生が、いよいよ将来の活躍の場を求めて飛び出していくのです。

もちろん、期待を上回るほどの不安もあることでしょう。就職活動には、必勝法はありません。遭遇した状況をその場で乗り越えることが常に求められます。そんな時に大切なのは、マニュアルよりも「ぶれない志」や「意思」ではないでしょうか。多摩大生は、入学時からそのことを何度も学んできていますが、今一度この出陣式で確認し、いよいよ本番を迎えます。「ぶれない思い」を持ち、「卓越した表現力を通じて伝える」プロフェッショナルである音楽座ミュージカル/Rカンパニーの方々の協力もいただきながら、教員、職員、学生全体で、3年生を、厳しい戦いの場へ送り出します。

頑張れ3年生。

## オール多摩大を信じて、チャレンジを!

3年生を対象としたキャリア支援講座では、筆記試験や面接対策講座など様々なプログラムを開催しています。中でもプロのミュージカル劇団「音楽座ミュージカル/Rカンパニー」による「YOKUBA」は、自己表現力の向上と達成感の体感を目的に導入された多摩大独自のプログラムで、今年で2年目となります。このプログラムの最終回(第7回目)として、12月11日(水)16時30分～18時30分多摩キャンパス001教室にて「出陣式」が開催されました。今回のテーマは「なりきりシアター!～君だったらどうする?～」。課題は、新社長になりきって社員を安心させ元気づける就任スピーチを考え発表すること。学生たちはグループごとに舞台の上で、思い思いのことばや身振りで表現しました。終盤には先生方からの応援メッセージが映像で流れ、就職活動に向う学生たちを激励しました。



チームで作り上げた演出でプレゼンテーション

## 経営情報学部 秋季卒業式

## 秋、社会に旅立つ卒業生を和やかに祝福

9月21日(土)12時10分から多摩キャンパス役員室にて、秋季卒業式が執り行われました。今年度の秋季卒業生は7名、当日の式には卒業生5名と保護者の方々が出席。久恒啓一学部長より卒業生一人一人に卒業証書が授与され、祝福の言葉が贈られました。全員で学園歌を斉唱し、式は終了。12時35分からは金子邦博教授の挨拶で乾杯し、卒業生、保護者の方々、教職員が歓談する和やかな懇親のひとつきを過ごし、志賀敏宏教授の挨拶にて閉会となりました。



秋季卒業生と教職員

## 経営情報学部 保護者向けセミナー「就職サポートセミナー」

## 就職支援の特徴と現場からのアドバイス

10月6日(土)13時～16時30分、多摩キャンパスにて経営情報学部の保護者に向けた「就職サポートセミナー」を開催し、168名の保護者の皆様のご参加がありました。講演と相談会の2部構成で、始めに後援会会長の米倉裕之様よりご挨拶の言葉をいただきました。

## 〈第1部〉講演「多摩大学経営情報学部の就職支援について」

2013年卒業生の就職決定率は93.3%。教職員が一体となった多摩大学経営情報学部の就職支援の特徴を紹介。久恒啓一学部長は、「多摩大学の人材育成戦略～ゼミの多摩大」と題し、教育理念、カリキュラム、ゼミの概要、就職状況などについて解説。杉田文章 就職委員長は「就職支援の現状と取り組み」について、キャリア支援課の三串豊 CDA (キャリア デベロップメント アドバイザー) は多摩大学のサポート体制の特徴、ご家庭で望まれるサポートなどについて、教職員の視点からアドバイスをしました。

## 〈第2部〉個別相談会(1・2年生保護者)、ゼミ別懇談会・個別相談会(3・4年生保護者)

3・4年生の保護者の方々を対象にゼミ担当教員がゼミの活動状況などを懇談会・個別相談形式でお伝えし、1・2年生の保護者の方々には職員による個別相談会を実施しました。



セミナーには多くの保護者の皆様に参加



ゼミ担当教員との懇談会

## ✈ 国際交流報告

## アジアダイナミズム 済州島研修視察

5月30日～6月1日、学生・教職員26名が韓国済州島にて開催の「済州平和フォーラム2013(5月29日～31日)」に参加しました。世界貢献のための日韓協力と日本の科学技術の情報発信を図るべく本学が企画したセッション「アジアの連帯協力と新事業新技術が世界を救う」では、下村博文文部科学大臣が基調講演を行いました。伝説の投資家ジム・ロジャースの特別講演やAFLAC最高顧問大竹美喜氏、元首相鳩山由紀夫氏との交流の機会もあり、47カ国3665人が参加したアジアの未来と発展を論じるフォーラムへの参加は、アジアダイナミズムの最前線を体感する貴重な経験となりました。



下村博文文部科学大臣と多摩大生との記念写真

## アジアダイナミズム 香港研修視察

9月3日～6日、学生・教職員33名が香港研修視察として、三井物産香港、香港中文大学、太古可口可樂(コカコーラ)香港有限公司への訪問、横浜FC香港 太田博喜董事総経理と選手との交流を行いました。中でも三井物産香港 野村董事長の講話での「グローバルビジネスとは居場所ではなく、世界の変化に着目し、判断力・行動力をもって事にあたるのが重要であり、自己の価値観やアイデンティティを大切にすること」との言葉は、参加者の心に深く響きました。研修視察を通して新たな発見や気づきがあり、今後学生生活を送る際の取り組むべき課題等を見つけ出す大きな契機となる研修となりました。



三井物産香港 野村董事長による講演

## 夏期短期留学 インターンシップ報告会

10月23日多摩キャンパスにて、2013年度夏期短期留学・インターンシップに参加した学生の成果報告プレゼンテーション大会が開かれました。オーストラリアケアンズに留学した阿部智大さん、金高桃子さん、黒澤未久央さん、菅谷由紀さん、芹澤誠、森下瞬さん、山崎優輔さん。ハワイに留学した青沼慈篤さん。韓国ソウルに留学した藤武翔さん、正地健太さん、同じくソウルでインターンシップに参加した江成麻衣子さんが、それぞれ現地で学んだこと、体験したこと、印象に残ったことなどを発表しました。どのプレゼンテーションも自分たちが直接体験したことに基づいているので、聞いている人が“なるほど”“とうなずいて感銘を受ける部分がたくさんあり、発表者、聴衆どちらにとっても有意義な時間となりました。



学生による成果報告プレゼンテーション

1999年10月から多摩大学教授として「グローバル化と情報革命」、「入門マクロ経済学」を講じていた中谷巖教授が、2001年9月、第四代学長に就任しました。学生にただ知識を伝授するだけの詰め込み型の教育が行き詰まったことに大学教育の根源的問題があるとして、自分の頭で考え、自らの足で立つことの重要性を訴え、考える力を身につけるための教育、問題を自ら発見し、解決できる人材を育成する教育への転換を陣頭に立って推し進めました。

## 中谷 巖 名誉学長時代 (1)

### 気づき教育「自己発見」の開講 ～自ら考え、行動する学生に～

多摩大学は、ビジネスの分野を中心に、問題解決の最前線において活躍する人材の輩出をめざしてきました。第四代中谷巖学長就任後、学長直轄により、新入生が入学時から十分な目的意識を持って大学生活を送る姿勢を確立してもらおうと、「意欲の喚起」、「動機づけ」を図る講座を開講しました。

2002年度より「自己発見」の名称で1年次春学期の必須科目となり、「善とは何か」、「日本を取り巻く国際政治をどう捉えるか」といった、学長自ら主導する大教室での講義と、その中で提示されたテーマに関するグループ討議を一方の中心とし、他方で、数人のグループを作って現地に足を運び、多摩地域の抱える諸課題を発見し、構造的に捉え、自分たちなりの解決策をプレゼンテーションの形で発表するという豊富な内容となりました。

2003年度には、「多摩地域」の解釈を広げ、広義の「多摩」や「東京都」も視野に入れ、抽出した問題に対する解決策について「拜啓都知事殿」として提案する形をとりました。そこでは、多摩地域に多い外国人留学生を公私両面から支援する活動の提案が実際に展開されたり、いったん廃止となった多摩地域の花火大会を再度立ち上げるべく働きかけ、実際に大会を再開させることに成功するなど、具体的な成果も達成され、マスコミにも大きく取り上げられました。

これらは、学生たちにとって大きな知的刺激となり、次年度以降も自発的にアシスタントとして参加する学生が増えました。新入生にとっては、自己発見のグループが友人を作るきっかけとなり、また、教員と学生間の

コミュニケーションも深まるなど、いろいろな意味で大学生活のスタートとなる要の役割を果たしました。

中谷学長退任後の2008年度は「多摩大道入門」と名称を変更

し継続され、2009年度以降の積極的・能動的なものの見方や学びの具体的方法論が身に付き、深められる基礎講座として学部専任教員が1年生春学期の導入教育を担当する「プレゼミナール」への橋渡しとなりました。

(大学教育改革への挑戦 多摩大学教育 20年史より)



中谷巖 名誉学長



「自己発見」講義風景



「自己発見」について紹介した2003年10月12日朝日新聞の大学特集記事

## 多摩大学創立 25 周年記念事業募金のご案内

多摩大学は、2014年創立25周年記念事業として、多摩キャンパスに新たなファシリティ（新棟）の建設をおこない、さらなる教育環境の進化として「学生の学ぶ場」を創設します。

- 募金の名称 「多摩大学創立25周年記念事業募金」 ■募金目標額 1億円 ■募金期間 平成21年6月～平成26年3月
- 寄付(募集)金額 一口1万円 三口以上のご寄付をいただいた方は全員(匿名を除く)のお名前を「多摩大学創立25周年記念事業寄付者銘板(仮称)」に記し、末永く顕彰します。

ご協力いただける方は、多摩大学ホームページからお申込み下さい。 <http://www.tama.ac.jp/>

※ご入金後、本学から送付される「寄付金額収書」と文部科学省の「特定公益増進法人証明書(写)」を添えて、寄付した翌年の確定申告期間に所轄税務署へ所得税の環付請求の手続きをお願いします。寄付金が5千円を超えた場合、5千円を超える分(ただし、年間所得の40%が限度)について、課税所得から控除されます。免税手続きに必要な日本私立学校振興・共済事業団発行の「寄付金受領書」は本学を経由して寄付者にお送りいたします。

【お問い合わせ】多摩大学25周年記念事業募金事務局 TEL:042-337-7112(総務課内) E-mail:soumu@gr.tama.ac.jp